

受講番号 18058 学校名 大津中学校 氏名 五百蔵 紀子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年 2組 生徒数 31名
 科目名 1年 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 New Horizon 1

クラスの様子・特徴

4月当初は、集中力が欠け、学習規律の定着に時間がかかったが、徐々に中学生としての自覚が高まり、意欲的な活動がみられるようになってきている。書くことへの抵抗は多少あるが、音声的なものには興味を示し、スピーキングなどには活発に取り組むことができる。

問題の確定

学習への期待は大きく、意欲的な面もあるが、基本的な学習規律がほとんど定着していない。各自が授業に参加できる環境をつくる。

予備調査

A 授業の観察

当初は落ち着きがなく、学習規律の定着に時間がかかったが、徐々に、ざわつきの中にも集中できる時間が取れる生徒が増えてき、ノート整理もできてきている。視覚に訴える物や音声に興味を示し、積極的な活動も見られるようになってきた。

B 生徒による授業評価

英語が好きであると答えた生徒が50%、普通39%である。英語は楽しく、将来、旅行や仕事で使える英語を身につけたいという希望をもつ者もあり、今後の授業に期待しているようである。また、覚えることが多すぎて負担がかかり大変だと感じている。

C 学力データ

語句テストでは、毎回少しずつ努力をすることが、自然に身につくつあるようで、1学期後半より点数が安定してきた生徒が多い。期末テストでは、点数に開きがでてきたので、苦手意識のある生徒を中心に、加力学習を行い、定期的に継続指導している。

リサーチ・クエスチョン

一人一人が学んだ語や文を使い、身の回りのことを表現できるようにするにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

語彙力を少しずつ高めていけば、表現するための、基礎・基本部分が身につくであろう。

実践1

覚えたい語句シート(新出語句、重要語句をまとめたもの)をユニットごとに作成し持たす。毎回5つ程度の小テストをし、間違った語句は10回書き直させ提出する習慣をつけさせる。また、課題として与え、既習事項を反復練習させたり、予習時の家庭学習での活用を促す。

検証1

シートを大切に扱い、家庭学習、発音練習時に上手に活用している。ほぼ毎時の語句小テストのための準備も抵抗なくできるようになり、家庭学習を習慣化させることができてきている。小テストでは、多くの生徒が、努力は結果に比例する、少しずつ力を蓄えていくことが、英語を使って表現できるようになる一歩となることに気づいてくれたように感じられる。しかし、定期テストでは、力を持続できず、満足のない結果が表れていない。

仮説2

新文法事項を中心に文の表現パターンを繰り返し練習させることにより、文を作ったり、言うことに慣れるであろう。

実践2

覚えたい表現シートをユニットごとに作成し持たせる。新しい文法事項を含む文やその他の重要文をパリエーションを入れる。シートを活用し、基本文、重要表現に慣らさせるために、口頭練習を繰り返しさせる。課題としても与え、家庭で既習事項を反復練習する習慣をつけさせる。

検証2

文としての形で、何回も繰り返し練習し、文を単なる暗記する状態から、実際の場面で使えるように、シートを利用し、簡単な会話をするのが可能になってきた。意欲的に、自ら取り組む意識の高い生徒もいる。しかし、全体的に控えめな気質の生徒が多く、思い切った行動に躊躇しがちで、あと一歩というところである。

仮説3

簡単なスピーキングテストを行うことにより、活動する動機付けををすと意欲をもって取り組むであろう。

実践3

スピーキングテストを行う。学んだことが、実際の自己表現の場で使え、会話が成立するテーマを与え、文を考え、発表させる。リアルな場面で話し、自分の表現したいことを相手に伝えることできた満足感、達成感を味あうことを通し表現する力を高めようとする態度を養う。

検証3

テーマについて考え、自分の言いたいことを英語で表し、それを基に、ALTの先生に実際に伝えてみる活動は、毎回どの生徒も、前向きに取り組み、力を試し、達成感を得ている喜びの笑顔が見られ、次へのさらなる期待に胸をふくらませている。少人数や個人の形態をとったときは活動しやすいようであるが、人数が増える活動がぎこちなくなってしまう。

研究の成果

まずは、当然のことだが、教師自身が目標を明確に設定し、意欲的、計画的に指導しようと試みたことが、生徒たちにもある部分伝わったところがあったのではないかと、この頃の彼らの成長ぶりを見ると感じるところがある。シートを大切に扱い、工夫した利用をし、家庭学習や授業時のノート整理もほぼ定着した。人前での発表が苦手だが、スピーキングテスト時には、自信を持って堂々と自分を表現できるようになってきている。

今後の授業改善の課題

基本的学習習慣がほとんどゼロの状態からのスタートであったが、少しずつ改善され、現時点では、努力をしながら学習をする生徒が多く育ってきた。この意識をさらに高めさせたい。また、書くことへの抵抗はなくなってきているが、人前での自己表現がやはり不得意である。ミスを恐れず、積極的に英語を使ってみようという雰囲気をつくり、個々の生徒が楽しく発言できる場面を設定したい。

リサーチについての問合せ先:

職場電話 088-866-2444 電子メール

noriko_jiroi@kt2.kochinet.ed.jp